

ジェンダー平等社会へ 四国比例に女性衆院議員を

日本共産党

衆議院比例四国・名簿登載予定



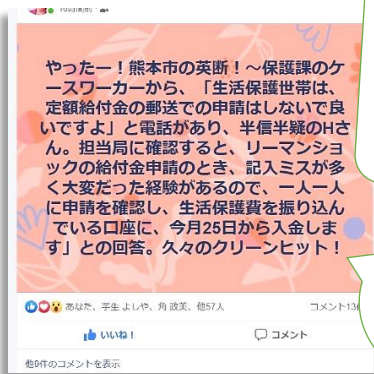
白川よう子

コロナ対策で次々成果

県内の各自治体がコロナ対策を次々と打ち出すなか、実現に向けて党の地方議員や支部のみなさんが大きな役割をはたしています。

高松市では担当職員が「共産党から再三要望があったので家賃補助をすることにしました」と言い、東かがわ市長は東本市議に「地域の業者を守れという思いは同じ。対策を急ぎたい」とのべ、即効性のある業者対策を打ち出しました。

—香川県党活動推進ニュースより



白川さんは第91回愛媛県中央メーデー集會に動画によるメッセージをおくりました。

熊本市 M.M.さんのfacebook



支部で「しんぶん赤旗」見本紙届け、読者に

「コロナ危機打開のためにも赤旗を読んで、守ってほしい」と、後援会員に見本紙や議会報告、後援会ニュースを届けている桑原支部。

久米支部の支部員は郵送し、電話で近況を聞き、最後に「赤旗知ってる？」と買って購読をしてもらい、3人の読者を増やしました。

北条、和気、小野支部でも見本紙を活用、読者拡大につなげています。

—中予地区党経験交流ニュースより

「大学生の5人に1人が退学を考えている」。本当にショックでした。アルバイト収入も断たれ学費や生活費に追われる学生からの切実な声。民青同盟の皆さんも学生アパルトなどへのポステイキングで声を集める活動に取り組んでいます。

もともと高い日本の学費が学生たちを苦しめ続けている現実を今こそ変える時です。国会では野党が学生支援法案を提出します。「あきらめなくていい」——このメッセージを学生たちに届け、学ぶ事をあきらめる学生を1人たりとも出さない闘いが私たちに求められています。

この間、PCR検査の体制強化を求め、医療現場から声をお聞きしてきました。PCR検査をするには検体採取をしなければなりません、この体制が追い付いていません。マ

スクや防護服などの物資も少ない。1人採取する度にディスプレイ（使い捨て）のカーテンや防護服代わりのオペ着など全部取り換える必要があります。指定病院以外は診療報酬のほかに収入はなく持ち出しのボランティア。協力病院を増やす必要があるが、こんな現状では増えるはずもない。

PCR検査機器の増設とともに採取の体制強化が必要との現場の声を香川県にも届けてきました。ようやく丸亀市と高松市にPCR検査センターが設置される事になりましたが、希望者が検査を受けられることが必要です。新型コロナウイルスは感染の山を繰り返していく事が予測されます。対応を間違わずウイルスとの闘いに失敗しないためにも十分な検査体制が必要です。

よう子記